

サザンクロス

vol.7

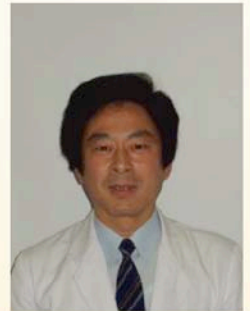
KINAN HOSPITAL
OFFICIAL INFORMATION PAPER

November. 1. 2009

PHILIPS社64列CTの導入について

当院では本年10月にPHILIPS社の64列CT(Brilliance CT 64)を導入しました。64列CTの導入は紀南地方では当院が初めてです。

PHILIPS社の64列CTは従来の16列CTと比較してその機能は格段に向上しています。特筆されるべきは何といても循環器領域における性能の高さです。「Beat to Beat アルゴリズム」と呼ばれる同社独自の心拍変動対応機能を有しているため、不整脈や心拍変動の大きい患者さんにも対応でき、冠動脈撮影ではわずか数秒間程度の息止めで高い精度での撮影が可能です。その結果、不整脈の患者さんや高齢者などの息止めが困難な患者さんでも撮影が可能となり、撮影困難例はほとんどなくなりました。また、被曝低減機能により被曝線量は大幅に低減され、さらに高速画像再構成ユニットの搭載により画像処理時間も大幅に短縮され、患者さんにとっても我々医療者にとってもとてもやさしくて心強い医療装置と言えます。



心臓センター
循環器科 赤木 秀治

64列CTでの冠動脈撮影は、従来から行われているカテーテルによる冠動脈造影と比較して、患者さんの身体的、経済的負担が大幅に軽減され、新たな診断手段として大きな期待が持てます。また、診断だけでなく、冠動脈のカテーテル治療や心臓血管外科手術における補助手段としても威力を発揮するものと思われまます。

さらに、循環器領域のみならず、整形外科領域、耳鼻科領域、内科領域、頭部領域、泌尿器領域、婦人科領域などにおいてもその性能を発揮出来ます。

導入後は、院内での利用はもちろん、登録医の先生方にも手軽に利用して頂けるように利用枠を拡大する予定です。ご利用をお待ちしています。

なお、11月中旬には64列CTの説明会を予定しています。日時等詳細は後日広報しますのでご参加をお待ちしています。



brilliance 64

病院長の重要な職務に職員の確保、特に医師の確保がある。医師の絶対数が足りなくなると、診察したくても診察できないので経営は成り立たなくなる。しかも単に医師免許を持っている人ではだめで「良い医師」を探す必要がある。この医師不足の時代にそんな医師が簡単に見つかるとは思わないが、それでもあちこちの大学や病院を巡ることとなる。「良い医師」とはどんな医師か、はっきりした定義はないが「評判の良い医師」ということになる。患者さんから見て良い医師とは、まず親身で優しい医師である。中には口のうまい医者もいるので注意が必要であるが、これに知識、技術、経験が加われば申し分ない。医者から見ると常に知識や技術の習得を怠らず、能力や知識の限界をわきまえている事も大切だ。医療技術の進歩は目覚しいが、病変部にだけに気を配るのではなく患者の生活や地域とのかかわりまで考えられる医師が必要だ。できるだけ魅力のある病院を作り「評判の良い医師」が集まるように努力する必要がある。

医師も、医師以外の職種も採用は面接試験が大きなウエイトを占める。評価基準は仕事に対する熱意と人間性で、態度や言葉、話

すときの視線、時々見せる笑顔、部屋に入ってきたときの第一印象などで判断する。えもいわれぬ明るさを漂わせる人は大歓迎だ。明るさとは声を出して笑うとか騒ぐのではなく、立ち居振る舞いにも明るい雰囲気を作っている人である。さわやかで晴朗な印象を与え、周囲には自然と人が集まる。逆に暗い面にはばかり目が行く人は歓迎できない。同じものでも光の当て方で見え方が異なるが、人生の暗い面にばかりに眼が行くのは人生とは暗いものだと思いたいからであろう。面接時間は短く、数人の面接試験官による評価は微妙に違うが、採用したい人はほぼ一致する。

最近、患者のQOL(Quality of Life)よりQOML(Quality of My Life)を第一にする医者が多くなったと大学の医局長は嘆くが、そんなことはない。現場のスタッフは忙しい中、いつもいやな顔も見せず笑顔で救急患者に対応している。孔子は十哲の一人である子貢に「先行」といって、弁舌よりもまず行動を勧めている。真のエリートとはえらそうなことをいう人ではない、黙々と仕事をしているの中にこそエリートがいて、彼らの力でかろうじて日本の医療制度が保たれている。

看護学校だより

防災訓練

10月2日、あいにくの雨でしたが防災訓練を行いました。給湯室より火災が発生したことを想定し、寮母さんも参加し避難訓練を行いました。消防隊員より消火のVTRを見せて頂き、水消火器を使い学校の玄関から外へ向かって消火訓練を行いました。また、消火栓については、天気がよければ外で実際に水を出しての訓練の予定でしたが、室内で各学年に分かれて使用方法の説明を聞きました。皆、質問をしたり積極的に参加していました。

しかし、ハンカチを持って口を覆いながら避難している学生が少なく、残念でした。今後も臨場感のある訓練をしていきたいと思えます。



教育研修

9月3、4日に1、2年生は教育研修がありました。目的として自律性、協調性を養うため、1年生は白崎青少年の家(由良町)、2年生は青少年旅行村(田田市)でキャンプを行いました。

学生がクラスのみならず協力し事前に計画していたメニューでの食事の準備や、レクリエーションを行い天気もよくほぼ計画どおりで楽しく教育研修が行えました。



宣誓式

爽やかな秋晴れの10月16日(金)、第35回生の宣誓式が行われました。来賓、保護者の見守る中、厳かに式が始まり少し緊張の面持ちでした。ナイチンゲール像から、一人ひとりが蝋燭に灯を燈し、全員でナイチンゲール誓詞を唱えました。そして、今回初めての試みで一人ひとりが理想とする看護師像を述べました。学生は「信頼される看護師になりたい」など、看護学生としての自覚を持ち決意を新たに誓いました。学生それぞれが輝き、看護職を目指す思いの伝わる式典でした。

地域医療連携だより



私が紀南病院整形外科を経て、この自然あふれる田辺に有床診療所を開設して今年で23年を迎えます。

その間、近隣でも19床の小規模な病床を持ちながら、何力所かの有床診療所が閉鎖されたり、診療所だけに縮小されたりと、その存亡をまのあたりにしてきました。

有床診療所とは医療施設の原点でもあり、長い間、住民にとっては柔軟性と機動性を兼ね備え、身近で小回りのきく「かかりつけ医」として地域医療になくてはならない役割を果たしてきました。

しかしながら長年の医療費抑制政策により、特に有床診療所は財政主導の中で全く無視され、低額な入院基本料を強いられながら、最近は病院並みの施設・入院基準を求められています。



坂田整形外科医院
坂田 仁彦



このような厳しい中で経営不振に陥り、毎年全国で1000施設の有床診療所が減少しているのが現実です。

このままでは、数年後に有床診療所が消滅する事も予想され、住民にとっては地域のかげがえのない入院施設を失うという危機に瀕していると言っても過言ではありません。

この現状に対して、有床診療所の存続と活性化のため、毎年8月の初めに「全国有床診療所連絡協議会総会」が開催されます。

今年は熊本に全国から会員が集い現場の声を強力に訴えて、私も参加し大いに刺激され士気を高めました。

要望(案)として、①入院基本料の全体的引き上げ②一般病床入院基本料の逓減性の見直し③看護配置基準の見直し④入院時医学管理加算の新設⑤医療計画における病床規制の撤廃⑥病床区分の撤廃を上げ、日本医師会会長唐澤祥人殿に宛てております。

高齢社会が進展し、地域の医療崩壊が叫ばれている今、地域医療・地域ケアの中核として、また安心安全医療の一翼を担う救急病床として、また後方支援病床としての役割は極めて大きいものがあると思います。

有床診療所が地域の医療機関との積極的な連携をとりながら、その発展と健全な運営をはかり、営々と築きあげられてきた医師と患者の信頼関係を堅持し、より良い医療を目指し地域医療に貢献できるよう、私も日々努力しております。



阿蘇にて

病院のまど

第21回市民健康講座のお知らせ

日本の食生活の欧米化に伴い、大腸がん・直腸がんの年間の罹患数が増えています。1990年は6万人、1999年には9万人を超えました。しかし、他の臓器と比べて転移が遅く、早期発見、早期治療によって完治する確率が高いのも事実。今回一緒に大腸がんの知識を学びませんか。

日 時 平成21年11月29日(日)

時 間 午後2:00~3:00

会 場 紀南病院 3階講堂

演 題 大腸がん ~克服するため
知っておくべきことは何か?~

演 者 外科部長 藤田 繁雄

ハートフルコンサート

11月29日(日)に、アイリッシュハーブ奏者玉置和美さんによるハートフルコンサートを開催します。

アイルランドの吟遊詩人が使っていたもので、普段見慣れているハーブよりも小振り、音色も繊細だと聞きます。どのようなメロディーが奏でられるのか、楽しみです。

ベナン共和国の検査技師研修

当院は、ODAの一環事業として、仏語圏西アフリカの臨床検査技師の海外研修の受け入れを行っています。今年はベナン共和国から臨床検査技師2名の研修員が来院しました。

10月5日(月)から10月9日(金)までの1週間、細菌感染症検査についての研修をし、帰国されました。

がん緩和ケア・がん早期診断に関する講演会

9月19日(土)に、当院講堂にて「がん緩和ケア・がん早期診断に関する講演会」を開催いたしました。

講師は、和歌山県立医科大学附属病院 集学的治療・緩和ケア部准教授の月山淑先生と、当院呼吸器科医長 田村志宣先生にお願いし、「緩和医療の現状~がん診療連携拠点病院の役割~」、「悪性リンパ腫の診断から治療の流れ」と題した講演をしていただきました。

編集後記

長い間、病院で勤務していると、「元気に働ける事は、ありがたい」と、つくづく思います。

食欲の秋・行楽の秋ならいいですが、インフルエンザの秋にならないよう、健康には注意しましょう。

(T・T)

基本理念

社会保険紀南病院

私たちは、患者さまに優しさをもって接し、皆様から信頼される医療を目指します。

紀南こころの医療センター

やさしさをもって信頼と満足の得られる医療を行います。

社会保険紀南病院

〒646-8588 和歌山県田辺市新庄町 46-70

Tel 0739-22-5000 Fax 0739-26-0925

<http://www.kinan-hp.or.jp>

第20回市民健康講座について

平成21年10月4日(日)に、「白内障のいろいろ(特にその手術)」と題しまして、市民健康講座が開催されました。

白内障とはどのような病気か、どんな手術があるのかについて、当院の月元医師が分かり易く解説しました。皆様関心が高く、多数の方が聴講にお越し下さいました。



Southern Cross

kinan hospital official information paper